



2009年2月6日 青森地方気象台発行

【1月31日～2月5日までの経過】

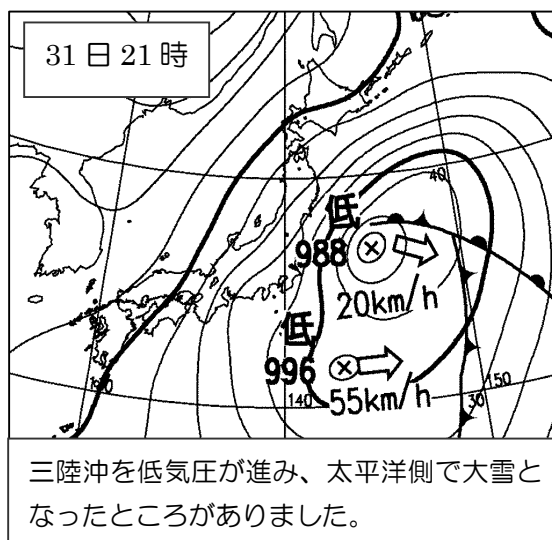
1月30日から1月31日にかけて、本州の南岸から三陸沖を低気圧が進みました。このため30日夜から青森県内では雨や雪となり、太平洋側を中心に大雪となった所もありました。

低気圧の通過後の2月1日は、一時的に冬型の気圧配置となりましたが、強い寒気の流入はなく、雪の所もありましたが、降雪量は多くありませんでした。

2日夜から3日にかけて、低気圧が青森県付近を通過し、一時雪となりましたが、降雪量は多くありませんでした。

4日から5日は、高気圧に覆われ、晴れや曇りの所が多くなりました。

青森では、1週間（1月31日から2月5日まで）の降雪量は9センチと少なく、積雪も35センチ程度と平年に比べて少ない状態が続いています。



【トピック】降雪の深さの日合計

青森市の浅虫水族館では、1月19日から2月28日まで『降雪割引』が実施されています。この降雪割引は、青森地方気象台で観測している前日の「降雪量」に応じて入場料金が割り引かれるというものです。「10センチ降れば1割引、50センチ降れば5割引、1メートル降れば・・・なんと無料。」また、「割引は10センチ以上からで、下1桁は切り捨てます。」とのこと。

さて、過去の観測値を調べてみると、1日でもっとも多く雪が降った日の降雪量は67センチでした。雪が1メートルも降って、入場料が無料になることはなさそうです。

今シーズンは、日本海側では雪の少ない状態が続いていますが、2月になって「5割引」といった大雪となる可能性もありますので、油断は禁物です。

青森の降雪の深さの日合計 多い順

	降雪量	日付
第1位	67 センチ	2002/12/11
第2位	66 センチ	1966/12/28
第3位	62 センチ	1974/01/18
第4位	60 センチ	1968/01/27
第5位	57 センチ	1999/02/20

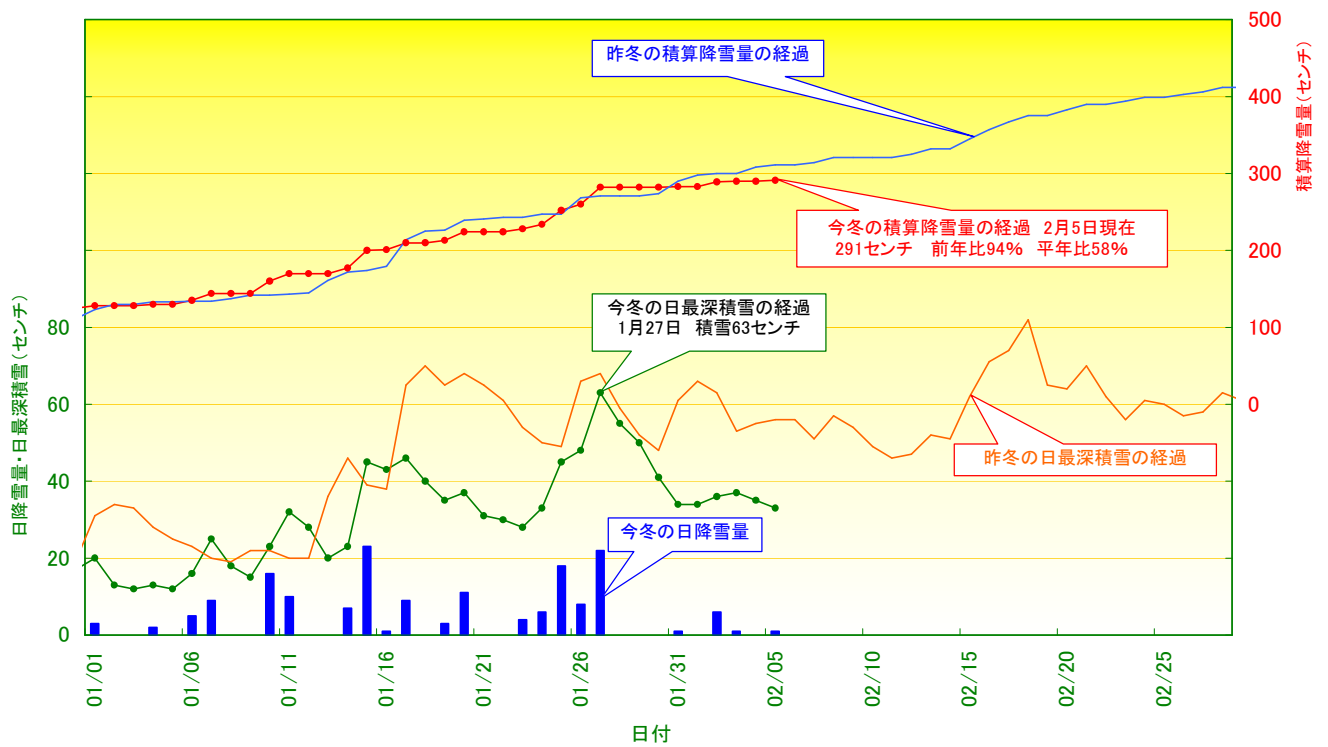
（1953年から2009年1月まで）

【東北地方の今後一週間の見通し（2月6日11時発表）】※最新の予報をご利用下さい。

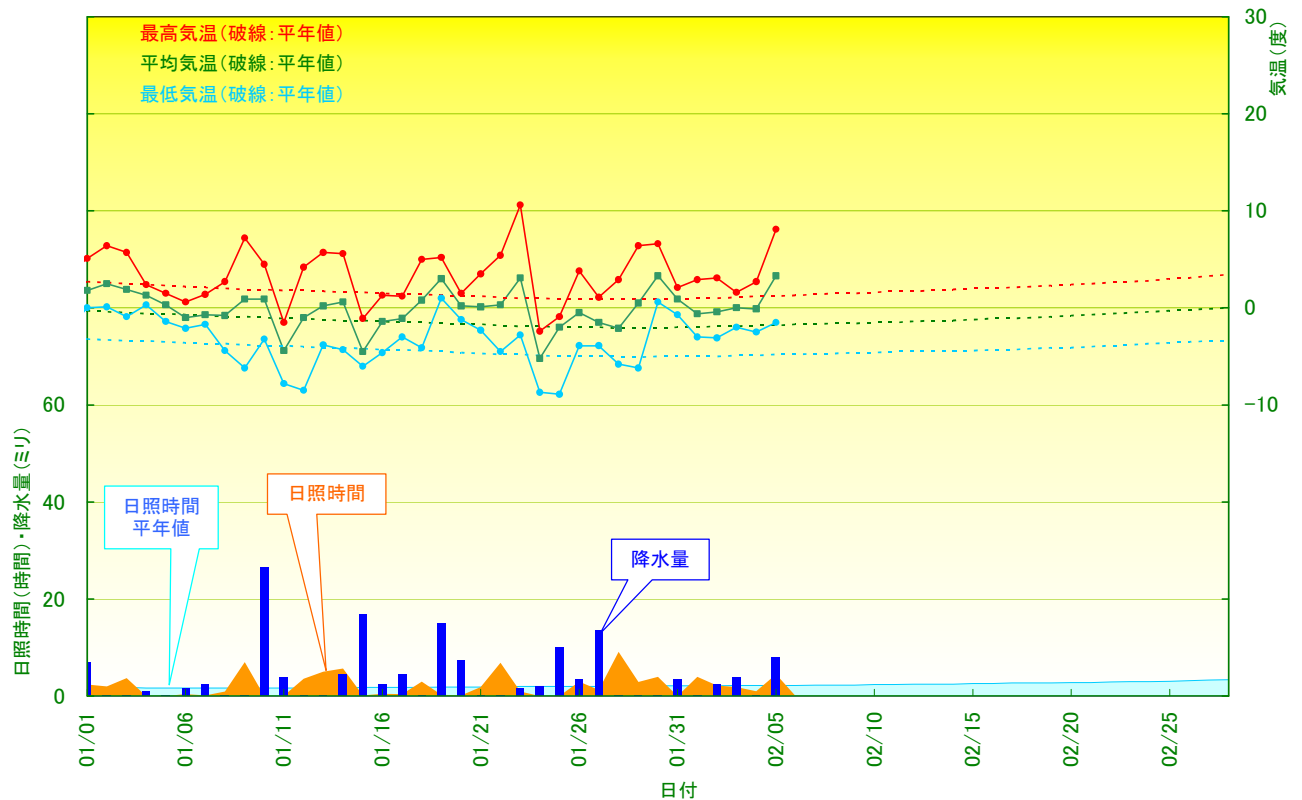
向こう一週間、日本海側では気圧の谷や寒気の影響で曇りで雪または雨の日が多いですが、期間の終わりは晴れる日があるでしょう。太平洋側では沿岸部を中心に晴れる日が多いですが、期間の中頃と終わりは気圧の谷の影響で雪または雨の降る所がある見込みです。最高気温は平年並か平年より高いでしょう。最低気温は平年並の日が多い見込みです。

（この原稿の作成 技術課 安藤）

【前月からの雪の経過図（青森）】 2009 年



【前月からの気象の経過図（青森）】 2009 年



県内気象官署の気候表（2009年1月）

青森地方気象台

	気温			降水量			日照時間		
	平均 (℃)	平年差 (℃)	階級	合計 (mm)	平年比 (%)	階級	合計 (時間)	平年比 (%)	階級
上旬	0.7	+1.4	高い	38.5	90	少ない	16.6	97	平年並
中旬	-0.8	+0.5	平年並	55.0	108	平年並	19.0	109	平年並
下旬	-0.3	+1.8	高い	34.0	67	少ない	30.0	132	多い
月	-0.1	+1.3	高い	127.5	88	平年並	65.6	116	多い

八戸特別地域気象観測所

	気温			降水量			日照時間		
	平均 (℃)	平年差 (℃)	階級	合計 (mm)	平年比 (%)	階級	合計 (時間)	平年比 (%)	階級
上旬	1.1	+1.5	高い	75.5	604	かなり多い	30.4	73	少ない
中旬	-0.7	+0.4	平年並	16.5	98	平年並	47.9	109	平年並
下旬	0.4	+2.2	かなり高い	26.5	141	多い	43.8	89	少ない
月	0.3	+1.5	高い	118.5	246	かなり多い	122.1	91	少ない

深浦特別地域気象観測所

	気温			降水量			日照時間		
	平均 (℃)	平年差 (℃)	階級	合計 (mm)	平年比 (%)	階級	合計 (時間)	平年比 (%)	階級
上旬	1.5	+1.1	高い	40.5	107	平年並	9.2	98	平年並
中旬	0.3	+0.6	平年並	33.5	126	平年並	15.1	148	多い
下旬	1.1	+2.2	かなり高い	29.0	89	平年並	17.6	×	×
月	1.0	+1.4	高い	103.0	106	多い	41.9	×	×

むつ特別地域気象観測所

	気温			降水量			日照時間		
	平均 (℃)	平年差 (℃)	階級	合計 (mm)	平年比 (%)	階級	合計 (時間)	平年比 (%)	階級
上旬	1.4	+2.2	かなり高い	50.5	149	多い	25.4	107	平年並
中旬	-0.3	+1.2	平年並	44.5	160	多い	15.3	64	少ない
下旬	-0.2	+2.1	高い	19.5	57	少ない	23.3	79	少ない
月	0.2	+1.8	高い	114.5	119	多い	64.0	83	少ない

県内気象官署の雪の集計表（2009年1月）

	降雪の深さ月合計			月最深積雪		
	月合計 (cm)	平年比 (%)	階級	月最深積雪 (cm)	平年値 (cm)	階級
青森	158	63	少ない	63	86	少ない
八戸	49	52	かなり少ない	18	18	平年並
深浦	74	60	かなり少ない	24	31	平年並
むつ	107	61	かなり少ない	30	47	少ない

★平年値は1971年～2000年の30年間の平均値

★階級は、平年値作成期間30年間の観測値のうち、上位1/3相当を「高い（多い）」、中位1/3相当を「平年並」、下位1/3相当を「低い（少ない）」と表現します。さらに、上位1/10相当と下位1/10相当は「かなり高い（多い）」、「かなり低い（少ない）」と表現します。

★日別値等、更に詳しいデータを必要とされる場合は、気象庁・気象統計情報（<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>）をご覧ください。

★データに付加する記号の意味

値)：準正常値、統計値を求める対象となる資料の一部が欠けているが許容する資料数を満たす値。

値]：資料不足値、統計値を求める対象となる資料が許容をする資料数を満たさない値。資料不足値には、十分な信頼性はありません。

県内気象官署月統計値の極値・順位更新(2009年1月)

更新なし

★月間の気温、降水量、日照時間、降雪・積雪について、各気象官署毎の統計開始から3位以内を記録した場合に一覧表に掲載します。

この冬の八戸は大雪ですよね？

個人的な印象として、この冬の八戸市など太平洋側では雪が多いと感じていました。実際に新聞報道（東奥日報 1/28 朝刊）によると、八戸市では「除雪費が底をつきかけている」そうです。ところが、一方で「八戸では雪が少ない」という方もいらしたので、調べてみました。

0. まずは、積雪深と降雪量についてのおさらい

冬の始まりから一切手を加えずそのまま積らせておいた雪の深さを積雪深といいます。気象台では1日24回毎正時に積雪深を積雪計で測定し、センチメートルで表します。

1時間前に観測された積雪深と比べ、1センチ以上増えていたときの積雪深の差を降雪量としています。1日24回の観測値を合計したものが「降雪量の日合計」でこれを冬の初めから合計していくことで、この冬の「積算降雪量」が求まることになります。

1. 降雪量だと「雪」は少ない

11月から2月5日までの八戸特別地域気象観測所の積算降雪量は、119センチでした。平年と比べると67%にとどまっています。降雪量に着目すると確かに「八戸では雪が少ない」ことになります。

2. 積雪10センチ以上の日数だと「雪」は多い

1日24回の観測値の中で積雪深の値が最も大きかった値が「日最深積雪深」となります。この冬は2月5日までの段階で、

八戸の「日最深積雪深」が「10センチ以上となった日数」は、12月に2日、1月に11日となっており、昨年に比べて非常に多くなっています。また、平年値に比べても多くなっています。したがって、積雪深に着目すると、「八戸では雪は多い」ことになります。

表1 八戸の日最深積雪が10センチ以上の日数

	今シーズン	昨シーズン	平年値
12月	2日	1日	1.9日
1月(*)	11日	0日	6.6日
2月	2(*)	2日	11.2日
3月	?	0日	4.2日

(*)今シーズンの2月は、2月5日までの集計

3. 大雪注意報の発表回数だと「雪」は多い

続いて、青森地方気象台が八戸市を含む「三八」に大雪注意報・大雪警報を発表した日数を調べてみました。過去5年間では、一冬を通して平均で大雪注意報の発表は12.8日となっています。ところが、今シーズンは、2月5日の段階で既に14日です。2月、3月を残しているにもかかわらず、過去5年の平均である12.8日より多くなっています。一冬分の大雪注意報が既に発表されていると考えれば、八戸市の除雪費が底をつきかけているのは、当然かもしれません。大雪注意報に着目すると、(八戸市を含む)三八の雪は多いことになります。

表2 大雪注意報・大雪警報の発表日数

	注意報を発表した延べ日数		
	11月～1月まで	2月～4月まで	合計
2003年～2004年	5	7	12
2004年～2005年	6	8	14
2005年～2006年	6	6	12
2006年～2007年	3	9	12
2007年～2008年	6	8	14
過去5年の平均	5.2	7.6	12.8
今シーズン (*)	14	?	?

(*)今シーズンは、2月5日までの集計

ちなみに、「三八」に大雪注意報が発表されている時に、必ず八戸市で大雪となっているとは限りません。田子町や三戸町など、同じ「三八」で大雪となっていて、八戸市では大雪となっていない場合も含むためですが、今シーズンと過去5年間では同じ条件ですので、ここでは気にしないことにします。

4. まとめ

八戸特別地域気象観測所のある八戸市湊町は海に近いために、同じ八戸市内でも内陸の地域に比べて、「雪」が少ないと言われています。同一市内でも地形や風の影響で雪の積もり方は一様ではありませんが、八戸特別地域気象観測所の雪の観測データを利用しても、積雪深の推移に着目すると今年の「雪」は多いことになります。また、大雪注意報の発表回数に着目しても、「雪」が多いとの結果になりました。

「雪」といっても、雪の降り方の強弱や期間の長短、積もった雪が解けるかどうかなどの条件が異なることで、雪が「多い」「少ない」と見方は変わってくる場合があります。今回調べてみて、ひとつの要素だけを見るのではなく、何事も様々な角度から調査・検討することが重要だと感じました。

さて、八戸市を含めて太平洋側では、春先の2月から3月に低気圧が太平洋側を通過して大雪となることが多くあります。実際に、過去5年間を見ても、(2005年から2006年を除いて)11月～1月よりも、2～4月に大雪注意報が多く発表されています。従って、これからが太平洋側の大雪の季節となります。气象台では、大雪となりそうときには、大雪注意報・大雪警報、大雪に関する気象情報などを発表します。气象台から発表される情報を利用して、大雪に備えていただきたいと思います。

(この原稿作成 青森地方气象台 技術課 安藤)

掲載したデータは速報値であり、品質管理によって後日修正される場合があります。



気象庁

国土交通省 気象庁 青森地方气象台
〒030-0966 青森市花園一丁目17番19号
電話 017-741-7411



国土交通省